

郷土や人から学び，よりよい生き方を目指す児童の育成

～キャリア教育の視点を生かした授業を通して～

龍郷町立龍郷小学校 教諭 福元 佳寿美

— 目 次 —

| | |
|----------------------------------|----|
| はじめに | 2 |
| I 研究主題 | 2 |
| II 研究主題設定の理由 | 2 |
| 1 社会的背景から | |
| 2 学校教育目標の具現化から | |
| 3 児童の実態から | |
| III 研究主題についての基本的な考え方 | 3 |
| 1 高学年におけるキャリア教育の捉え方 | |
| 2 キャリア教育カリキュラム構造図 | |
| IV 研究の仮説及び研究の内容 | 4 |
| V 研究の実際 | 5 |
| 1 総合的な学習の時間や学級活動にキャリア教育の視点を生かす取組 | |
| 2 社会科にキャリア教育の視点を生かす取組 | |
| VI 研究の成果と課題 | 10 |
| おわりに | 10 |

【参考文献】

- 小学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省（平成 29 年）
- 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省（平成 29 年）
- 澤井陽介・唐木清志著「小・中社会科の授業づくり」 東洋館出版（令和 3 年）
- 日本キャリア教育学会著「キャリア教育概説」 東洋館出版（令和 2 年）
- 松村英治編著「令和時代の総合的な学習の時間入門」 東洋館出版（令和 3 年）

はじめに

人は、他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等の様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが「キャリア」の意味するところである。このキャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、児童・若者の発達段階や発達課題の達成と深く関わりながら段階を追って発達していくものであり、その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠である。

昨年度は、低学年児童におけるキャリア教育の在り方を実践した。今年度は、高学年児童を対象に「キャリア教育」の視点で実践・研究したことをまとめた。

I 研究主題

郷土や人から学び、よりよい生き方を目指す児童の育成 ～キャリア教育の視点を生かした授業を通して～

II 研究主題設定の理由

1 社会的背景から

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の進化などにより、児童の将来は、予測困難な時代になると言われている。

学習指導要領の総則には、「児童の発達を支える指導の充実」の中で「児童が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と書かれている。

小学生の時期とは、「自分の役割を主体的に果たそうとする態度を育成する時期」「自分の特徴に気付き、良いところを伸ばそうとする時期」「社会生活の中での自らの役割や、働くこと、夢をもつことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大、自己及び他者への積極的関心を形成する時期」である。児童は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められている。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、キャリア教育の実践の姿だと捉える。

小学校におけるキャリア教育は、具体的な資格につながる能力を身に付けさせることだけを目指すのではない。上記のような時期だからこそ、人と共に生きていくことの大切さや、学び続けることの楽しさを体感させ、学ぶことと生きることとのつながりについて考える機会を創ることが大切である。また、学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、児童の発達段階にふさわしいキャリア教育に取り組んでいくことが重要であると考えた。

2 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標は、「深く学び、心豊かで、たくましく、よりよく生きようとする力を備えた子どもの育成」である。この教育目標を具現化させるために、教育活動の中でより主体的に考える場の工夫、他者との関わり方を見直す工夫などのキャリア教育を充実させることでこの教育目標を達成できると考える。

3 児童の実態から

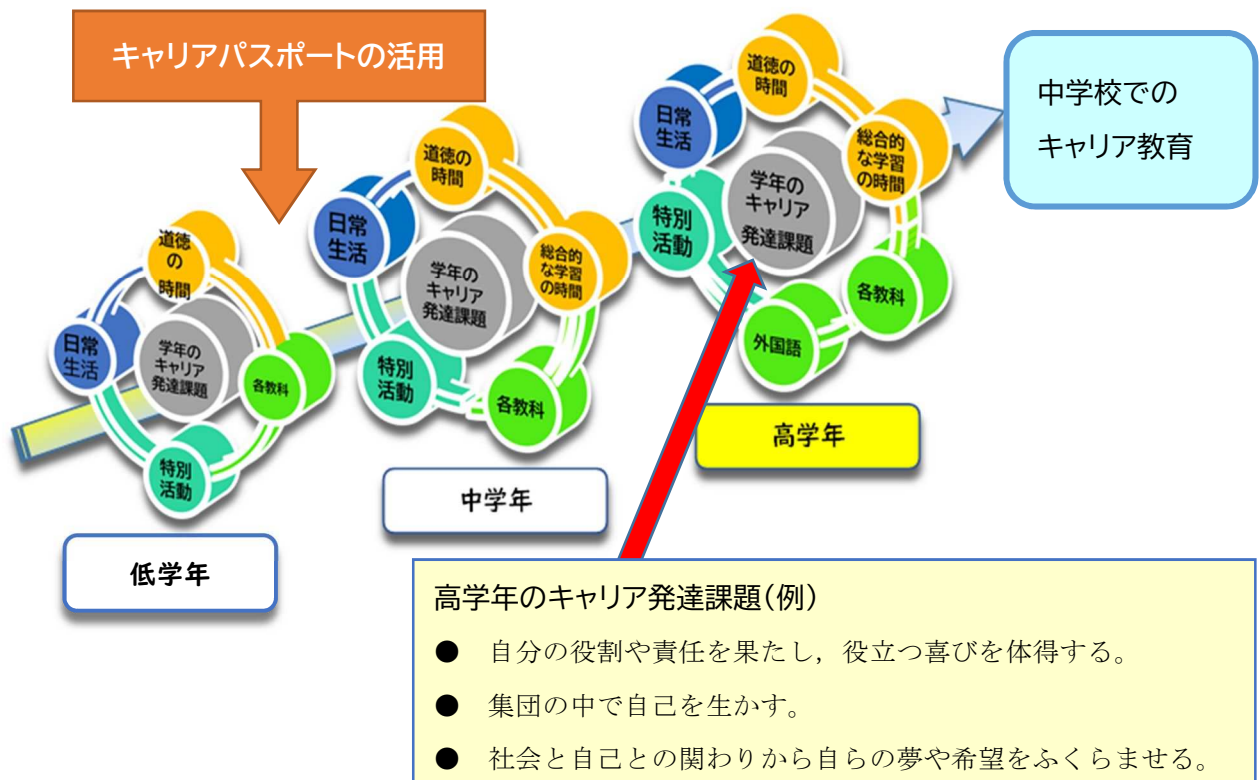
本学級は、5年生6人、6年生3人の合計9人の複式学級（内、特別支援学級在籍4人）である。何事にも真面目に取り組む児童が多く、任された仕事や課題はきちんとやり遂げようとする良さがある。活発に意見を言える児童がいる一方、高学年独特の発達段階に加え、間違いたくないという気持ちも加わり、自分の考えをなかなか言えない児童やどう伝えたら良いか分からない児童もいる。また、幼少の頃から比較的变化のない人間関係の中で過ごしているため、序列や他者から捉える人間性が決まっているところや、いわゆる指示待ちの行動が多く、活動を自分で創意工夫していくことに対する弱さも、4月当初大変気になった。そのため、自己肯定感が低く、自分の良さに気付いていない児童もいた。

これらの実態を踏まえて、本研究を行うことで、自信を付けさせ、自分の考えを堂々と伝えられるようにしたい。そのためには、様々な考えを肯定的に受け止める温かい学級の雰囲気づくりが不可欠である。また、夢や目標を抱かせることで、授業に対する意欲や学力を伸ばすことにつなげていきたいと考えた。

Ⅲ 研究主題についての基本的な考え方

1 高学年におけるキャリア教育の捉え方

高学年におけるキャリア教育を全教育活動の中で6年間を通し、意図的・継続的に推進し、6年生では、中1ギャップへの対応も考えながら下図のように捉え実践することとした。



2 キャリア教育カリキュラム構造図

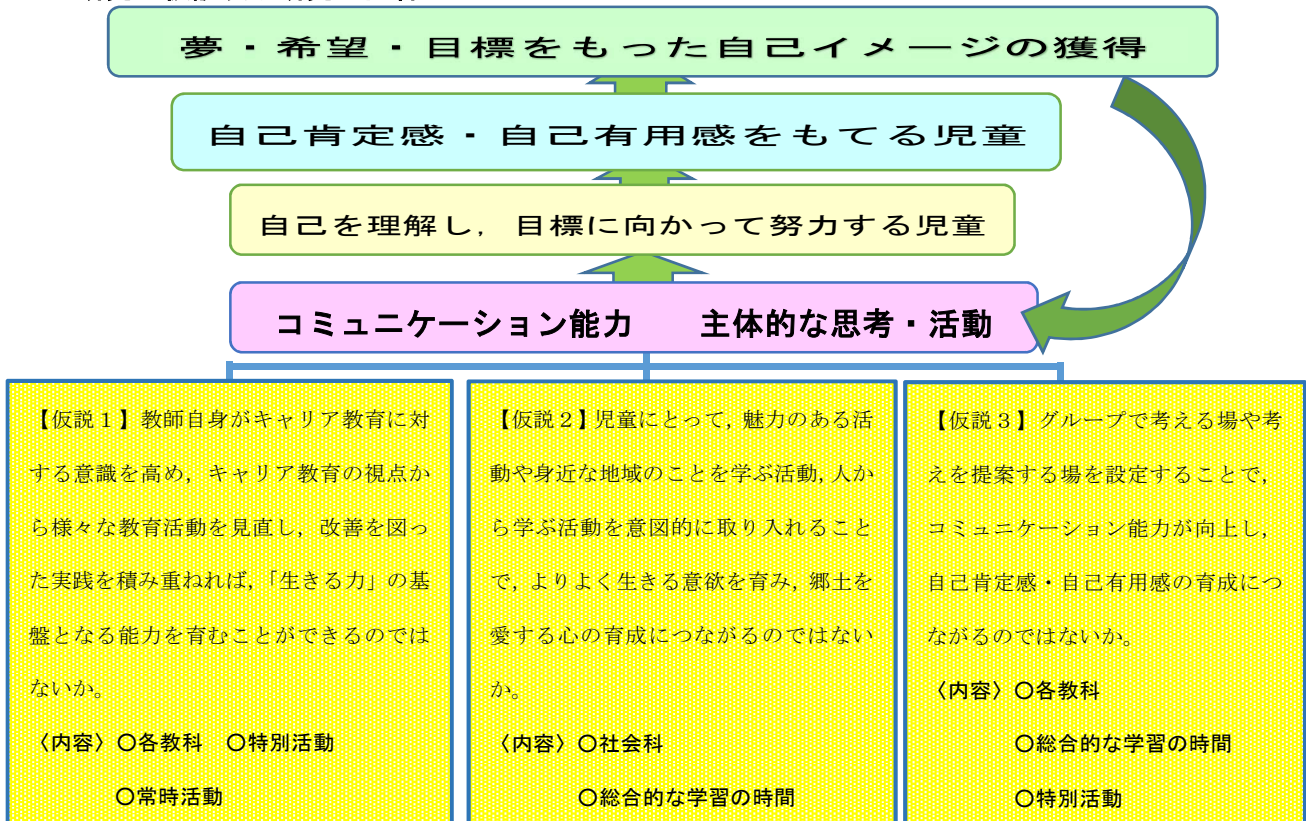
| | | |
|--|---|---|
| <p>良さを伸ばし生きる意欲を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 満足感・達成感を味わわせる活動・学びの重視 ○ 自己肯定感を生む言葉掛け ○ 夢や目標につながる体験活動・教育環境の重視 | <p>「生きる力」の基盤となる能力を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科における基礎的・汎用的能力の育成を意識した授業改善 ○ 話し合い活動・振り返りの充実 ○ 総合的な学習の時間の充実 | <p>郷土を愛する心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人材・素材を最大限に生かす学習の充実 ○ 地域を大切にする活動の充実（ボランティア活動・青少年赤十字活動） |
|--|---|---|

「キャリアストーリー」キャリア教育題材一覧表 ※ BLS教育の部分の実践を取り上げたい。

第6学年 「夢・希望」…夢や希望をもち、将来のことや生き方を考える。

| | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|-----------|--|--|--|
| 各教科 | <p>社会 「わたしたちの生活と政治」</p> <p>保健「病気の予防」</p> <p>国語 「イーハトーブの夢」</p> <p>社会 「日本の歴史」</p> <p>国語 「今、私は、ぼくは」</p> <p>家庭 「共に生きる地域での生活」</p> | <p>宮沢賢治の生き方に共感できるな。みんなのことを考える大人になりたいな。</p> <p>〇〇さんですごいな。日本のためにこういうことをしたいな。</p> | <p>こういうところが成長したな。中学生になったら〇〇に挑戦したい。</p> <p>自分と家庭や地域とのつながりを考え、自分ができることややってみたいことを発表しよう。</p> |
| 道徳 | <p>「それじゃ、ダメじゃん」個性の伸長</p> <p>私はこういうところを直していけばいいな。伸ばしていきたいところはこういうところかな。</p> | <p>「上村さんのちょうせん」希望と勇気、努力と強い意志</p> <p>難しいけどがんばろう。いろいろなことに挑戦しよう。</p> | <p>「のぼさんの夢」よりよく生きる喜び</p> <p>自分の夢を大切にしよう。困難にも負けずにがんばろう。</p> |
| 特別活動 | <p>6年生になって</p> <p>6年生ではこういうことをがんばりたいな。</p> <p>夏休みの過ごし方</p> <p>1学期を振り返ろう</p> | <p>2学期を迎えて</p> <p>運動会</p> <p>2学期を振り返ろう</p> <p>応援団長としてがんばるぞ。下級生に優しく教えよう。</p> <p>宿習学習</p> <p>学習発表会</p> | <p>3学期を迎えて</p> <p>6年間のまとめ</p> <p>卒業式</p> <p>〇〇が成長したな。こういう中学生になりたいな。中学校では口を頑張ろう。</p> |
| キャリアパスポート | <p>みんなのために（係活動・委員会活動・学校行事・清掃活動）</p> | <p>宿泊学習</p> <p>学習発表会</p> | <p>〇〇が成長したな。こういう中学生になりたいな。中学校では口を頑張ろう。</p> |
| 総合的な学習の時間 | <p>「奄美の偉人」西郷菊次郎さんを調べよう「アサギマダラツアー」</p> | <p>「新しい体育服を考えよう」（遠隔授業）</p> <p>「学習発表会」（いもーれ 奄美！！奄美の良さを伝えよう）</p> <p>「アサギマダラツアー」「プログラミング教育」「防災教育」</p> | <p>「私のみらい」夢授業</p> <p>こういう仕事をしたいな。この仕事をするために今から〇〇をがんばろう。</p> |

IV 研究の仮説及び研究の内容



V 研究の実際

1 総合的な学習の時間や学級活動にキャリア教育の視点を生かす取組

自己の生き方を考えることは、学習指導要領解説に次の3点にまとめられている。

- (1) 人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。
- (2) 自分にとって学ぶことの意味や価値を考えていくことであり、取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。
- (3) (1)と(2)を生かしながら、学んだことを現在及び将来の生き方につなげて考えることである。

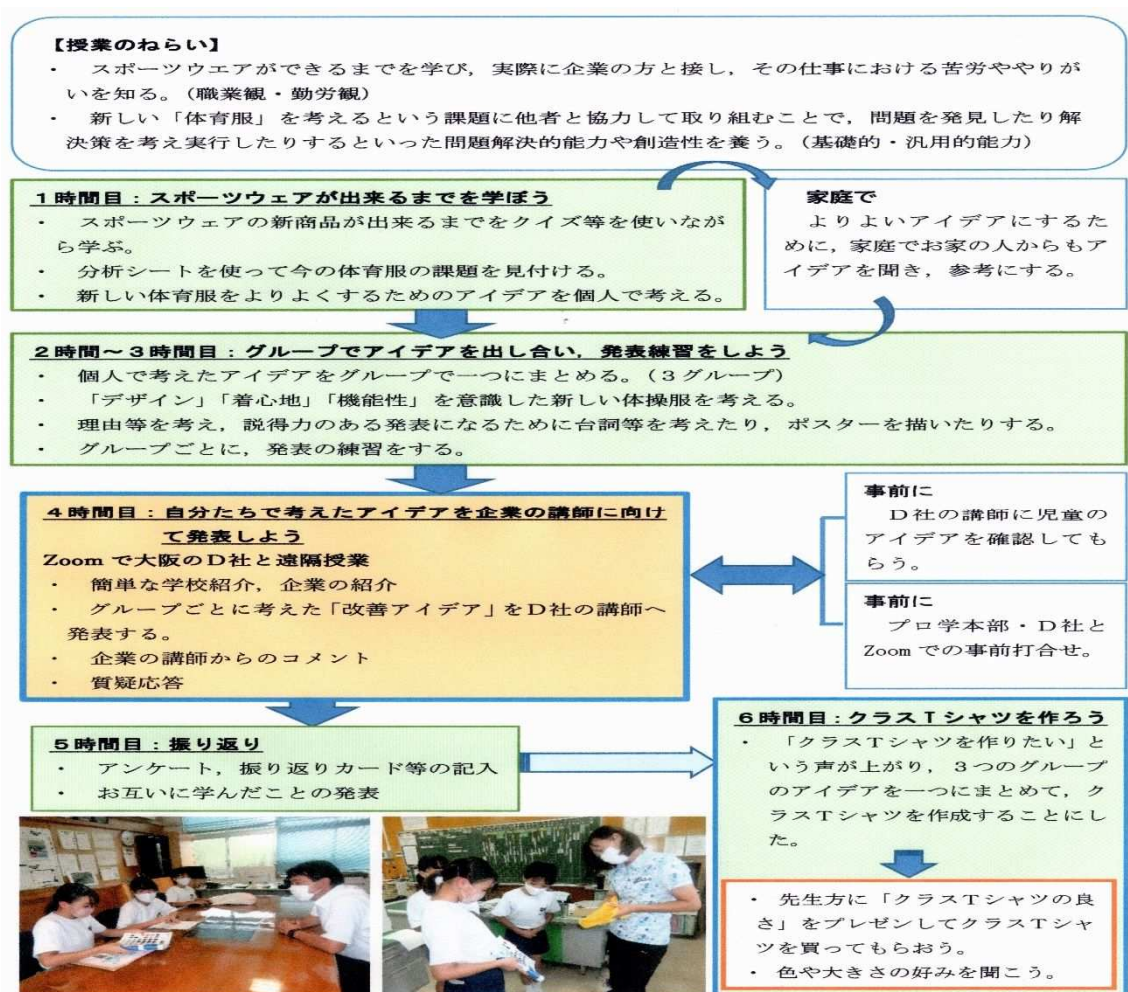
つまり、総合的な学習の時間や学級活動はキャリア教育を取り入れやすい学習といえる。

実践例 1 【新しい体育服を考えよう】～静岡大学「プロ学・遠隔授業」への参加～




(1) 参加のねらい

今年度、静岡大学の「プロフェッショナルをすべての学校に」という取組に応募した。その理由は、コンセプトが「山間地域や離島では、学校の小規模化に伴い、多様な大人と触れ合う機会が少なく、キャリア教育の面から教育格差が問題となっている。また、従来の企業の出張授業では、インプット型授業が多く、Society5.0時代に対応するためには、ICTを活用した遠隔での出張授業で創造的に問題発見・解決する能力を育てるアウトプット型の教材開発が必要である。」ということであり私の考えるねらいと合致したからだ。

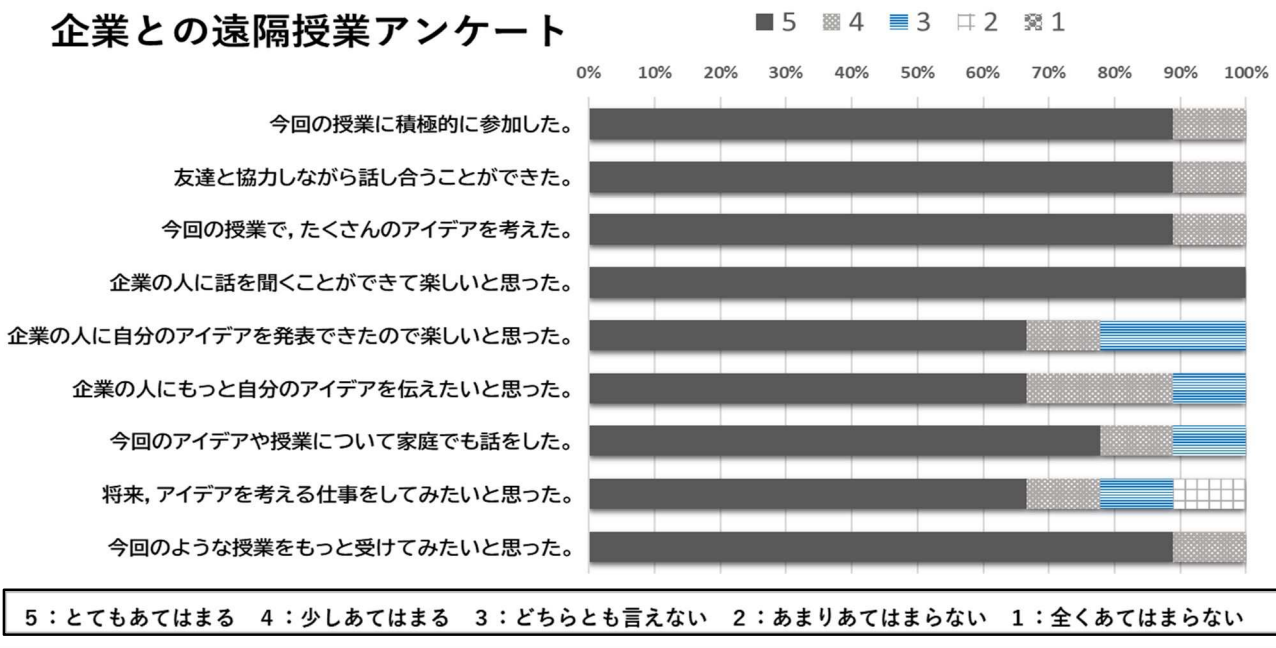
(2) 授業全体の流れ



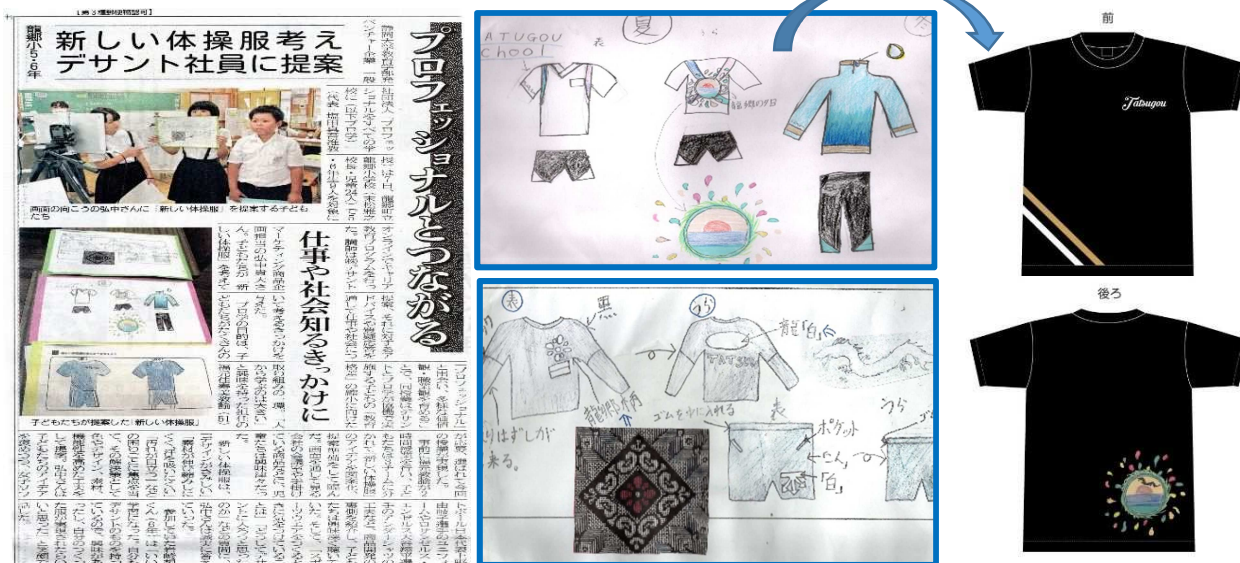
(3) 授業の実際 第4次

| 時間 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 |
|----|--|---|
| 5 | 1 リモートでつないで挨拶をする。 ・ 児童が挨拶や自己紹介をし、その後企業や講師の紹介を聞く。 | ○ 奄美のことや龍郷小学校のことを講師に伝え、楽しい雰囲気づくりをする。  |
| 5 | 2 発表の確認をする。 | ○ グループごとに打合せをさせる。 |
| 25 | 3 グループごとに「アイデア」を発表する。 ・ 「児童の発表⇒講師コメント」を3回繰り返す。 ・ アイデアポスターや実物を基に講師にアイデアを伝える。  今の体育服のデザインがシンプルすぎるので、龍郷の夕日をデザインに入れたいです。  寒い時に長袖になるように、袖が取り外せるデザインにしました。 | ○ 実物を用いることで、「何のために」その工夫を考えたのか、説得力のある発表をさせる。 ○ 児童の発表の良さを講師から伝えてもらう。さらに、D社の実際の商品と児童のアイデアを比較し、具体的なアドバイスをしてもらう。 |
| 10 | 4 講師に質問をする。 ・ 発表をして気になったことや、講師の仕事について等、質問をする。 ・ 最後に講師からメッセージをもらう。 | ○ なぜその仕事に就くことを決めたのかや、仕事のやりがいなどを聞くことを通し、自分の将来を見つめさせる。 |

企業との遠隔授業アンケート



(4) 児童が考えたアイデアポスターや掲載された新聞記事



【奄美新聞】2021. 10. 9

【アイデアポスター】

【クラスTシャツ】

(5) 児童の感想

- 私は、前から自分でこんな服を着てみたいなどと絵に描いたりしていましたが、素材など、そこまで考えていませんでした。今回初めて素材や生地をみんなで考えて、アイデアをまとめた服は、とっても輝いて見えました。分かりやすいアドバイスもうれしかったです。
- Zoomでの発表はとても緊張しました。D社のスポーツウェアは、それぞれの選手の皆さんに合った洋服を作っていることを初めて知りました。選手の皆さんが活躍しているのも、D社や多くの方の協力があるのかなあと思いました。
- (前略) 私は、この授業を通して、アイデアを出すのが好きになりました。また、やってみたいです。
- (前略) アドバイスがとても分かりやすかったです。今回の授業で、ぼくは、こんな仕事にもつきたいなあと夢が広がりました。

(6) 実践を終えて

講師が、自分はずっと野球をしてきて、選手がより活躍できるスポーツウェアを作りたいから今の会社に入ったこと、エンゼルスの大谷翔平選手やソフトボールの上野由岐子選手のトレーニングウェアを作っていること、幼い頃からD社のウェアを着ていて、その時に力を発揮できたこと等、働くきっかけを分かりやすく話してくれたことは、将来の夢を考える高学年の児童にとって、とても価値があったと思う。離島の児童であっても、遠隔授業という手段を使えば、大企業との授業も行うことができ大変貴重な体験となった。児童のアンケート結果からもそのことがよく分かる。

また、話を聞くだけでなく、自分たちで考えたアイデアを提案するアウトプット型学習にしたことがより主体的な学びや、コミュニケーション能力を向上させることにつながった。

授業後、体育服をすぐ変更することは難しかったので、「クラスTシャツを作りたい」

という願いを保護者に伝えたところ、快く協力してくださり、実際に製作することができた。

さらに「良さを先生方にも伝えたい」という児童も現れ、相手の好みの色等を聞いたり、デザインの良さをプレゼンしたりする活動にまで広がった。児童にとって楽しい活動は、教師が意図する以上に主体的な活動が広がるのだと痛感することができた。その後、クラスTシャツは、集団宿泊学習や学習発表会で着用した。このことにより、クラスの団結力や所属感は強まり、それぞれの持ち味（デザイン画・プレゼン活動）を生かした活動は、自己肯定感や自己有用感を高める結果となった。

実践例 2【防災教育】～奄美防災キャラバン Pepper 防災授業（ソフトバンク社会貢献授業）～

(1) ねらい

災害はいつやって来るか分からない。いざという時のために「自らの判断で自分を守るための行動」を身に付けさせる。また Pepper が語ることで、児童の授業への関心を更に高める。

(2) 授業全体の流れ

【授業のねらい】

- ・ 防災に携わる仕事や奄美豪雨について学び、実際に気象庁や役場の方と接し、その仕事について知る。（職業観・勤労観）
- ・ 「大雨の災害に遭わないようにするため」には何をしたらよいかグループ討議をすることで、解決策を考え実行したりするといった問題解決的能力や創造性を養う。（基礎的・汎用的能力）

1 時間目：BLS教育（学級活動）

6年：救命救急を体験しよう

- ・ 実際に、胸骨圧迫とAEDの使い方を消防士から学ぶ。



助け合うことが大切なんだな。困っている人がいたら、勇気を出して一歩踏み出すことが大切。



1 時間目：BLS教育（学級活動）

5年：結いの精神を学ぼう

- ・ 消防署の方から奄美豪雨の様子を聞く。
- ・ 被害を少なくするためには、日頃の「結いの精神」が大切であることを学ぶ。



2 時間目：Pepper 君と学ぶ防災教育

- ・ 大雨が続くと、どのようなことが起こるかを考える。
- ・ 積乱雲が近づいてくる時のサインについて知る。
- ・ 大雨の災害に遭わないようにするためにはどうしたらよいかをグループで考えて、発表する。
- ・ 役場の方や名瀬測候所の方の話を聞く。



プログラミング教育

- ・ Pepper 君を動かす命令を作ろう。



3 時間目：振り返り

- ・ アンケート、振り返りカード等の記入
- ・ お互いに学んだことの発表

家庭との連携

- ・ 防災教育で学んだことを家庭で話し、避難の仕方を話し合う。
- ・ 学級PTAで授業の様子を知らせる。

Pepper 君が動いたり話をしたりするようなプログラムを考えたいよ。

(3) 児童の感想

- 天気を予測して、自分で判断、行動をして、自分の命は自分で守ることが大切だと思った。
- 私の家では、防災グッズを用意していないので、非常持ち出し袋を準備したり、避難場所を家族で確認したりしようと思った。

2 社会科にキャリア教育の視点を生かす取組

4月、児童の社会科嫌いに愕然とした。社会科は暗記教科のイメージが根強い。だが、これからは、知識・技能を習得するだけでなく、それらを活用する問題解決力や地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚などを包括的に身に付けるべき教科である。さらに、現在の現状を理解するだけでなく、地域の人に自分の考えを伝える、といった社会とつながった授業や活動を取り入れることこそが、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりとなり、児童の社会科嫌いを減らすことにつながると考えた。そのことは、キャリア教育の根幹に直結するものでもある。

(1) 6年生「子育て支援の願いを実現する政治」

教科書で埼玉県の「子育て支援」について学んだ後で、龍郷町の「子ども子育て支援応援課」の方を招いて、龍郷町の現状を話していただいた。「もし、龍郷町で子育て支援センターを建設するなら、このような施設を建ててほしい」という提言を行うことができた。



【児童の考える子育て支援センター】

- 勉強できる部屋がほしい。
- 異年齢で遊べる部屋や遊び道具がほしい。
- 絵本、本などをたくさん読める部屋がほしい。
- 高校生・中学生から、勉強（理科の実験・工作など）を教えてもらえるイベントがあったらいい。

児童のアイデアの良さを褒めていただき、今後の参考にしたいと言っていた。

社会に参画することにつながられた学習となった。

(2) 5年生「米づくりのさかんな庄内平野」

教科書で取り上げられている山形県産の米を奄美で食べることができるのかという学習である。ちょうどコロナ禍であったので、B社の食品担当の方にビデオレターで出演していただいた。「奄美にも10年程前までは、庄内平野の米が運ばれていたが、東北大震災以降、



【食品担当の方の説明】

物流の流れが大きく変わったこと」等を教えていただいた。社会科で「人から学ぶ」ことの意義を感じた。その後、ネット販売という流通に児童は気付いた。



【板書】

(3) 5年「水産業のさかんな地域」



奄美（龍郷）の漁業について教えていただいた。龍郷の漁業の概要やこれからの水産資源を守るために漁師の方が、県と協力してウニの栽培漁業に取り組んでいることや稚魚を放流することで海の資源を増やそうとしていることについて話してくださった。児童も知らないことばかりでとても興味深く聞いていた。

【児童の感想】

- 「自分の仕事に誇りをもっている」とおっしゃったことが心に響いた。
- 自然環境の変化で奄美の海が変わってきていることがよく分かった。漁師さんは、捕るだけでなく、増やそうと「藻場」を作り、努力しているところがすごいと思った。
- 水産業に携わる仕事は、魚を捕るだけではないのだと思った。漁師の道もいいなあと思った。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- どの学習でどのような人材・教材を生かせるかという視点で授業構成を行ったことが、学習意欲や理解につながり、将来こんな風になりたいという夢をもたせることができた。またアウトプット型の学習を通して主体的なコミュニケーション力の向上が図られた。（アンケート1・2）
- 児童の苦手意識が強かった社会科学習に力を入れることで社会科への興味・関心が飛躍的に伸びた。調べたことをグループで話し合ったり表現したりする学習を積み重ねることが、他教科でも力を発揮でき、学力の向上やクラスの雰囲気づくりにつながった。（アンケート3）

2 研究の課題

- 児童の将来につながる「キャリア教育」を展開していくために、教育課程の内容を意図的・計画的に見直し、各教科等で身に付けた資質・能力などを生かせるよう、教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメント実現に向けて学校全体の指導計画を見直し、より系統的に指導をしていきたい。

おわりに

小学校段階では、早くから目指す職業を決定させ、具体的な資格につながる能力を身に付けさせることだけを目指すのではなく、人と共に生きていくことの大切さや、学び続けることの楽しさを体感させることが重要だと考える。それらを通し、夢や目標に挑み続ける人生を歩んでほしい。未来に向かって努力し続ける児童を育成できるよう、共にこれからも実践を積み重ねていきたい。

